

ロンドン大学での発表を終えて

明治大学商学部 柴田加菜子

今回のロンドン大学での発表は、自分にとってまさに大学での4年間を終え、取得した経済学学士号に花を添えるような大きなイベントとなった。はじめに、この機会を紹介してくださった水野先生を筆頭に八木先生、新里先生、久井田先生に心から感謝したい。この学会を通して、「経済教育」という観点の他に多くのことを学んだ気がする。本稿では、私自身が学生としてロンドン大学を訪れて、見たこと、感じたこと、学んだことについて記述したいと思う。

ロンドン大学を訪れたのは今回が初めてではなかったが、実際にロンドン大学の教授たちに囲まれて議論を交わすのはこれが初めてだった。そのため、今回のような学会は自分にとって非常に新鮮で、学会に参加する前の私は非常に緊張しており、また動揺もしていた。けれども学会が一度始まると、躊躇している暇もなく緊張感が一気に吹き飛び、先生たちの会話に溶け込むことができた。それは来ていた先生方の助言やロンドン大学の先生方がとてもフレンドリーで、寛容的に接してくれたお陰だ。このような周りの先生方の助けなしでは自分はそのまで積極的に話に参加することが出来なかつただろう。その後、ロンドン大学の先生や学生たちとのディスカッションや実際にCOREが使われている授業の聴講から、COREに関して多くの情報や意見を得ることができ、ロンドンでCOREがどのように学ばれているかを知ることが出来た。

特に日本では経済を英語で教育する教材としてCOREが使われているが、ロンドン大学では経済をよりインタラクティブかつ実用的に学ぶ教材として使われていることを知った。日本の経済教育もロンドンと同様にCOREを用いるべきとは言わないが、ロンドンのようにもっと実践的に学べるようになったら日本の学生は経済についてもっと興味を持つのではないかと思った。

日本の大学の先生方四人に加えて、私たち学生三人も日本で現在COREがどのように使われているかについて発表する機会をもらい、発表した。それぞれ個人の発表後、ロンドン大学の先生たちから質問を受け、オープンな議論をすることができた。私たちの発表を通してロンドン大学の先生方はとても楽しんでいるように見えて、個人的にはとても嬉しかった。

今回の経験を通して、今後も経済教育学会に身をおき、COREプロジェクトを通して日本の経済教育を良くするために少しでも貢献したいと思った。また、この機会を通して知り合ったロンドン大学の先生方や秘書の方とも連絡を取り合って連携してさらに効果的にCOREを広めていきたいと思った。